

第4章 モデル事業と受け入れ体制の現状把握

1. モデル事業の実施要領

来訪者を受け入れるモデル事業を実施し、活動状況を分析、適正なプログラムと体制のあり方を検討した。

- 期間 : 2004 年 11 月 28 日（日）～12 月 4 日（土）（6 泊 7 日）
- 対象地域 : 安芸市、夜須町、大方町、西土佐村
- モニター人数 : 8 名（各地域 2 名）
- 募集方法 :
 - ・ 専用ホームページ上で募集の告知
 - ・ ボランティア、農業体験等に関連するメールマガジンで告知
 - ・ 首都圏、関西圏主要都市のボランティアセンターにパンフレット設置
 - ・ 首都圏、関西圏主要都市のカルチャースクールにパンフレット設置

（→資料「モデル事業モニター募集告知先リスト」を参照）
- その他、民間企業のOB会、大学の掲示板・OB会等でモニター募集を告知した。
- 募集パンフレット （→資料「モデル事業モニター募集パンフレット」を参照）

2. モデル事業のプログラム

4 自治体におけるモデル事業のプログラムは以下のとおりである。各プログラムは各自治体内の作業部会等、受け入れ側の官民の検討と協力により決定したものである。プログラム内で体験するボランティアメニュー作成にあたっては、「地元らしさのあるもの」「初心者であるモニターが実施できるもの」「受け入れ体制が整うもの」等に留意した。

(1) 安芸市

月日（曜日）	時間	スケジュール	宿泊
11月28日 （日）	10:15 11:25 12:45 13:00～ 13:45 14:10 14:59 16:00頃 以降	羽田空港2階出発ロビー集合 羽田空港発（ANA563） 高知龍馬空港着 高知空港→高知駅への移動車中で オリエンテーション 高知駅発 南国9号 ごめん・なはり線 安芸駅着 改札口でお迎え（市役所職員） 陶芸館研修棟着 自由行動	内原野陶芸館 研修棟
11月29日 （月）	7:23 7:48 9:00 10:30 11:28 13:00～ 17:00 以降	陶芸館発（市営バス） 安芸駅着 オリエンテーション（市役所） 安芸駅発（市営バス） 畑山着（昼食：畑山温泉）小松靖一氏出迎え ボランティア（柚子の収穫） 自由行動	畑山温泉憩いの家
11月30日 （火）	8:00 8:10 8:30～ 11:30 11:43 12:31 以降	畑山発（小松氏の自家用車） 寺内着 ボランティア（地鶏の卵集め・卵磨き） 寺内発（市営バス） 安芸駅着 自由行動	内原野陶芸館 研修棟
12月1日 （水）	8:20 9:00～ 16:00 以降	陶芸館発（レンタルサイクル） ボランティア（なすの収穫、選別、整枝・整葉他）（昼 食・休憩含む） 自由行動	内原野陶芸館 研修棟
12月2日 （木）	9:00～ 12:00 12:00～ 17:15 17:54 夜	ボランティア （陶芸用土ねり、窯出し他） 休憩・自由行動 安芸駅発（市営バス） 入河内『東川小・中学校前』着 歓迎交流会	有澤満子氏宅 『峠茶屋』

12月3日 (金)	9:00～ 12:00 以降	ボランティア（柚子の収穫） 自由行動	有澤満子氏宅 『峠茶屋』
12月4日 (土)	9:05 9:42 11:11 12:17 13:00～ 15:00 17:00 18:10	入河内発（市営バス） 安芸駅着 安芸駅発（ごめん・なはり線） 高知駅着 サンルート高知（高砂）にてグループインタビュー 高知龍馬空港発（ANA568） 羽田空港着 解散	

（２）夜須町

月日（曜日）	時間	スケジュール	宿泊
11月28日 (日)	11:00 12:00 12:45 13:00～ 13:45 14:10 14:43 15:00頃 以降 19:00	伊丹空港で航空券を受け取り搭乗 伊丹空港発（ANA1613） 高知龍馬空港着 ジャンボタクシーにて移動、車中にて富士通総研より オリエンテーション 高知駅発 南国9号 ごめん・なはり線夜須駅着 サイクリングターミナル着 自由行動 市役所職員よりオリエンテーション	夜須町サイクリン グターミナル「海 のやど しおや 宿」
11月29日 (月)	9:30 10:00 10:10 10:30 11:00 13:00～ 16:00 以降	宿を出発（自転車） 夜須町役場着 道の駅挨拶 市役所で助役と挨拶 道の駅着（昼食：ヤ・シィパーク） ボランティア (クリスマスディスプレイ等) 自由行動	同上
11月30日 (火)	9:00 9:10 9:30～ 15:30	宿を出発（自転車） 夜須町社会福祉協議会着 ボランティア（介護ボランティア：話し相手、レクリ エーション等）	同上

	16:00 16:30 以降	夜須町社会福祉協議会発 ターミナル着 自由行動	
12月1日 (水)	終日	自由行動	同上
12月2日 (木)	9:30 10:00～ 12:00 12:00～ 13:00 13:00～ 15:00 以降	宿を出発(町公用車) 羽尾地区でボランティア ログハウス大釜荘周辺における軽作業と地区振興の ための企画会議(意見交換) 地域の方々と昼食 羽尾地区発(公用車) 自由行動	同上
12月3日 (金)	9:00 9:30～ 12:00 以降 夜	宿を出発(町公用車) ボランティア(夜須町内の観光資源を視察、観光事業 再編を考える(アイディア出し)) 自由行動 歓迎交流会	同上
12月4日 (土)	11:36 12:17 13:00～ 15:00 16:45 17:30	夜須駅発 高知駅着 ホテルサンルート高知にてグループインタビュー 高知龍馬空港発(ANA1620) 伊丹空港着 解散	

(3) 大方町

月日(曜日)	時間	スケジュール	宿泊
11月28日 (日)	10:15 11:25 12:45 13:00～ 13:45 15:22 17:02	羽田空港2階出発ロビー集合 羽田空港発(ANA563) 高知龍馬空港着 ジャンボタクシーにて移動、車中にて富士通総研より オリエンテーション 高知駅発(南風11号) 土佐入野駅着 地元コーディネーター坂本あやさんがお迎え	「小橋様」宅 ゆうゆう亭 地元ご担当: 坂本あやさん NPO砂浜美術館 都築久代さん
11月29日 (月)	9:00 オリエン テーショ	オリエンテーション(役場) 海工房にて手もみ塩づくり	「小橋様」宅 ゆうゆう亭 地元ご担当:

	ン終了後 17:00～	自由時間	海工房社長：西隈 隆則さん
11月30日 (火)	9:00 17:00	海工房にて手もみ塩づくり 自由時間	「小橋様」宅 ゆうゆう亭地元ご 担当：海工房社 長：西隈隆則さん
12月1日 (水)	終日	自由行動	「小橋様」宅 ゆうゆう亭
12月2日 (木)	8:30 16:00 17:00 以降	入野芝の黒砂糖組合にて黒砂糖づくり 黒砂糖づくり終了予定 地元の方との交流会（空き家持ち主小橋様、役場の方、 NPO砂浜美術館メンバー、雇用促進協議会など出席 予定）	ネスト・ウェスト ガーデン土佐 地元ご担当： 黒砂糖組合：小橋 正義さん
12月3日 (金)	8:00 15:00 18:00	漁協にて干物づくり・田舎ずしづくり体験 田辺守さん方にてトラクターでの田起こし 田辺様宅で交流会	ネスト・ウェスト ガーデン土佐 地元ご担当： 田辺守さん
12月4日 (土)	11:21 12:54 13:00～ 15:00 17:00 18:10	土佐入野駅発（南風16号） 高知駅着 ホテルサンルート高知にてグループインタビュー 高知龍馬空港発（ANA568） 羽田空港着 解散	地元ご担当： NPO砂浜美術館 都築久代さん

（４）西土佐村

月日（曜日）	時間	スケジュール	宿泊
11月28日 (日)	11:00 12:00 12:45 13:00～ 13:45 15:22 17:31 18:00	伊丹空港にて航空券を受け取りご搭乗 伊丹空港発（ANA1613） 高知龍馬空港着 ジャンボタクシーにて移動、車中にて富士通総研より オリエンテーション 高知駅発南国11号 江川崎駅着 （四万十楽舎・平野さん（女性）がお迎え） 四万十楽舎到着 Ｉターン者への雑誌「田舎暮らしの本」の取材、同席・ 会食	四万十楽舎 (バンガロー)
11月29日	9:00	打合せ	四万十楽舎

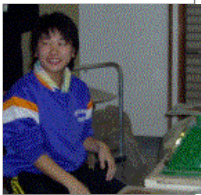
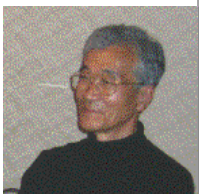
(月)	10:00 12:00 16:00	農業公社見学 しゃえんじりと昼食 作業部会と懇談 夕食 作業部会と懇親（四万十楽舎）	(バンガロー)
11月30日 (火)		ボランティア(村内写真撮影) ボランティア(調査活動) しゃえんじり事務所にて交流会	四万十楽舎 (バンガロー)
12月1日 (水)	15:00	ボランティア(村内写真撮影) ボランティア ボランティア(調査活動) 地域づくり座談交流会（民泊を受け入れている農家「星星の家」）	四万十楽舎 (バンガロー)
12月2日 (木)	終日	自由行動	四万十楽舎 (バンガロー)
12月3日 (金)	10:00 12:00 17:00	ボランティア(木工・トマト収穫（公社にて）) カヌー講習 交流会	四万十楽舎 (バンガロー)
12月4日 (土)	10:33 12:54 13:00～ 15:00 16:45 17:30	江川崎駅発 高知駅着 ホテルサンルート高知にてグループインタビュー 高知龍馬空港発（ANA1620） 伊丹空港港着 解散	

(5) ボランティアメニューの一覧

No.	受け入れ側	ボランティアメニュー
1	小松靖一様宅（安芸市）	ゆず収穫、地鶏土佐ジロー世話
2	内原野陶芸館（安芸市）	内原野焼体験者のための土ねり、窯出し
3	有澤節子様宅（安芸市）	なす収穫
4	道の駅やす（夜須町）	道の駅での清掃、店舗ディスプレイ
5	社会福祉協議会（夜須町）	デイサービスにおける通所介護
6	羽尾地区（夜須町）	まちづくりに関する話し合いへの参加
7	海工房（大方町）	天日塩づくり（ごみのチェック、包装）
8	精糖組合（大方町）	黒砂糖づくり（搾汁、攪拌）
9	田辺守様宅（大方町）	トラクターでの田起こし
10	地域づくりグループしゃえんじり （西土佐村）	事務所からレストランへの改装相談、パソコン指導
11	農業公社（西土佐村）	トマト収穫、包装

(6) モデル事業に参加したモニター

モデル事業に参加したモニター8名のプロフィールは以下のとおりである。

藤田圭子さん (20代・大学生・東京) ★まちづくりに強い関心、 愛媛出身 	中山三照さん (30代・大学院生・大阪) ★複数大学のNGOネット ワーク代表 	小川敬史さん (20代・NPO準備中・千葉) ★SEをやめ、中越地震 でもボランティア 	吉村直子さん (20代・大学生・兵庫) ★観光サービス専攻、 体力には自信 
篠田宏美さん (20代・大学生・東京) ★旅行好き、 高知は初めてで楽しみ 	笹 正康さん (30代・無職・京都) ★一級建築士、京都の まちづくり活動も 	小林盾さん (36代・大学院生・東京) ★米国の大学で社会学 を勉強中 	山下宣明さん (60代・退職者・兵庫) ★インターネットと写真、 旅行が趣味 

(7) コーディネーターの活動

今回のモデル事業中、2町村においてはボランティアを行うモニターと受け入れ側双方のコーディネートを行う世話役「コーディネーター」を民間より置いた。2市町においては自治体職員がコーディネーター役を兼務した。民間のコーディネーターと主な活動は以下のとおりである。

大方町 坂本あやさん(NPO砂浜美術館理事)

- ・駅への出迎え、宿・ボランティア先への送り迎え
- ・全体スケジュール、宿(空家)利用についての説明
- ・付近の買物、交通手段についての説明
- ・体験メニュー(漁協での干物づくり体験)に同行
- ・交流会への参加



西土佐村 大高達人さん等四万十楽舎スタッフ

- ・駅への出迎え、宿・ボランティア先への送り迎え
- ・休日の観光に動向
- ・付近の買物、交通手段についての説明
- ・交流会への参加



(8) 自由時間のモニターの活動

ボランティア活動以外の自由時間にモニターが訪問した先、活動等は主に以下のとおりである。

- ・安芸市訪問モニター → 室戸岬／市内で地元の友人と面会
- ・夜須町訪問モニター → 香我美町

(夜須町での活動中に情報を得て、飛び込みでみかん農家でボランティア)

- ・大方町訪問モニター → 四万十川
- ・西土佐村訪問モニター → 足摺岬／柏島黒潮実感センター

長距離の移動には受け入れ先・市町村職員等が車を出し終日同行する等等協力を得た。

3. モデル事業におけるモニターの意見

モデル事業実施中において各モニターが記入したアンケートと終了後行ったグループインタビューによって得た主な意見は以下のとおりである。

(1) ボランティアについて

- ・自然にふれたり、初めての体験で新鮮、楽しい
- ・どんなボランティアが求められているのか、より具体的に事前に知りたい
- ・農業の単純作業のボランティアは初心者でもでき、よかった
- ・地震のボランティアなどと比べて、相手が困っている、何かしてあげなければ、という切実さを感じにくい

- ・高齢者向けの介護施設は季節に左右されないボランティアができるし、よい
- ・短期間だったので楽しいところばかりだったが、もっと長期間やらないと仕事の本当のところはわからないだろう
- ・(単純な仕事でも) コツがわかってくると目に見えてできていくのでうれしい
- ・もっと長い時間ボランティアをしたい
- ・一部のプロセスだけでなく製造や栽培の最初から最後までやってみたい
- ・より一層ボランティアが必要とされている繁忙期にお手伝いしたい
- ・交通の不便なところで半日空き時間ができてしまうよりも、まる1日単位で、ボランティア／休日と設定したほうがよい
- ・作業時間は9～17時、3日作業して1日休みくらいがよい

(2) 現地での生活について

- ・長期間滞在するには自炊できる設備がほしい。また洗濯機などの設備と費用のことを考えると農家への民泊もよいが、一定のプライバシーはほしい
- ・現地の交通手段については車があるとよい長期間レンタカーを借りるのは費用が高い
- ・足がないのが不便でもあり、地元の方に送迎してもらうのも心苦しい、ただし自転車でもあまりに長距離の移動は厳しい
- ・初めてきた地域なので、高齢化地域にも関わらずエスカレータやエレベータがない、サイクリングロードであるのにガードレールや標識、街灯がないなどに気づきがあった(ぜひ自然の景観を保持しながら整備してほしい)。

(3) コーディネーターや受け入れ側について

- ・いろいろと面倒を見てもらい、大変よくしてもらって感謝している
- ・コーディネーターは大変重要。できれば日中連絡が付きやすい人で、地元のことに詳しい人(急病への対応等が可能)が望ましい。また、地元の人は方言がきつくて通じない場合もあり、こうした場合の通訳的なことも頼りになる
- ・一人のコーディネーターがそのつど調整しては負担がかかりすぎ、かえって続かないのではないかな。ある程度マニュアルやガイドラインの決めごとがあって、それに沿って進められるようにするのが望ましい
- ・定住してもらいたいという気持ちはわかるが、あまりそれを強調されると、ボランティアで役に立ったという充実感が薄れるように思う

(4) 事業全体について

- ・飛行機でボランティアホリデーに来るとしたら、全額個人負担ではかなり難しい。ある程度割引されることが必要。自宅から自家用車で行ける範囲のところであれば交通費は自己負担できる
- ・交通費を全額自己負担するのであれば宿泊が無料、かつ昼食つきくらいにしてほしい。その場合民泊でもかまわない
- ・地域のパンフレットをたくさんもらったが、あり過ぎてどれを見れば概要がわかるのか、特色ある情報が見られるのか、などがわかりにくい。

- ・今回の訪問地に知り合いができたので再度訪れたい
- ・まちづくりに興味がある大学生や、地域というフィールドで何かやってみたいと思っている人にはニーズがあると思う。その場合、大学の春休み・夏休み等の長期休暇に受け入れられるようにするなど大学側で休学が不利にならない措置等があるとよい。

4. モデル事業に関する受け入れ側の意見

モデル事業終了後、モニターを受け入れ側よりアンケートによって受け入れについての意見を収集した。主な意見は次のとおりである。

- ・ふだん交流のない人（特に若い人）と出会えることが新鮮で楽しく、話題にバラエティがあり刺激になった
- ・慣れない作業でも一生懸命取り組む姿に感動した
- ・もっと長時間・長期間ボランティアをしてほしい（説明したり教えたりするのにかかった手間・時間に対して短かった）
- ・受け入れ側が必要とする時期に来てほしい
- ・毎年同じ人が同じ時期（繁忙期）に来てほしい
- ・1日だけだったが、職場が賑わって活気が出てよかった
- ・安く受け入れられる宿泊先さえあれば多くの人が参加できると思う
- ・モデル事業だけではボランティアホリデーがよいのかどうか、正直言ってわからない
- ・どんな人が来るのか、ボランティア内容に向いているのかどうか、事前に知っておきたい
- ・ボランティアホリデーがめざしているものを受け入れ先に事前に充分説明してほしい

5. 国内他地域のモデル事業の結果

本事業は、四国運輸局が高知県4市町村を対象地域として実施しているが、同時に北海道（道東地域4市町村）、東北（山形県4市町村）、九州（鹿児島県6市町村）国内3地域においても同時に検討を進めている。モデル事業についても他の3地域で実施されており、主な結果は次のとおりである。

	北海道	東北	九州
村 市 町	阿寒町／斜里町／常呂町／女満別町	河北町／天童市／東根市／山形市	出水市／高尾野町／野田町／阿久根市／東町／長島町
メ ニ ュ ー	・ツルセンターでの飼育ツルの世話 ・鹿よけ柵づくり ・長イモ収穫の手伝い ・遺跡から発掘された遺物の整理・復元、復元住居の補修作業	・果樹選果場におけるラ・フランス、りんごの選果、箱詰作業 ・集荷所に集められた花の出荷、分化作業 ・野菜の収穫手伝い	・焼酎工場での芋切り ・ブランドジャガ芋掘り ・漁協でのブリ出荷 ・地域特産味噌づくり ・ボンタン袋とり ・牛車引き、牛の世話
つ い て の 意 見	・地元らしさのある作業が特に好評 ・福祉のボランティアはわざわざ現地まで行く必要がないのではという指摘も ・シニアにとっては負荷の高い作業があった ・季節的に農作業等の仕事が少ない、行政関係団体による受け入れが多くなった	・地元らしさを感じられる農作業が多く、好評 ・農協直売所での野菜の袋詰は、地元のスーパーでもできると不評だが、ラ・フランス箱詰作業は役立ったという満足度が高いことから好評。 ・モニターが重いコンテナを持って、ぎっくり腰になった（ボランティア保険で対応）。	・焼酎工場、ぼんたん農家等地域らしいボランティアメニューが好評 ・モニターからはボランティアというよりは体験観光的との意見が多数あがった
現 地 の 生 活 に つ い て の 意 見	・移動はコーディネーターの送迎頼みで、恐縮しているモニターがいた ・公共交通の不便さについての意見が多く見られた	・ボランティア先への移動は公共交通機関、自転車、受け入れ側の車のいずれかで対応 ・宿泊施設に対する不満はなかった（温泉旅館、公営のロッジ等）。	・公共交通が不便、レンタサイクル等の充実が望まれる ・宿泊施設で主人や女将との交流が良い機会になったとの意見があったが、一部では設備に問題ありとの意見も
自 由 時 間 に 行 っ た 活 動	・阿寒町→釧路湿原、鶴居村 ・斜里町→町立図書館、網走市街 ・常呂町→網走刑務所博物館 ・女満別町→知床	・山形→最上川ライン舟下り（新庄）、天童温泉 ・天童→若松寺、山寺、ゆびあ（温泉施設） ・東根→大滝、最上川舟下り（村山）、湯めぐり ・河北→りんご園、紅花染め体験、ひなの湯	・出水・高尾野・野田⇒ツルの越冬地、近郊の温泉 ・阿久根・東・長島⇒焼酎工場、行人岳（展望） ・片道2時間かけて天草、知覧へ

6. 受け入れ体制の現状について

モデル事業実施と前後した作業部会において、またモデル事業でのプログラムを作成する過程とも併せて、各自治体においては将来的にボランティアホリデーの参加者を受け入れていくにあたっての体制の検討を行った。受け入れ体制についての主な意見は次のとおりである。

【ボランティアメニューの現状】

- ・初めて来る人に対してのボランティアメニューは、個性ある地域資源に関連する単純作業やその地域を知るのに便利という意味でイベントが望ましい。ただし専門性の高い資格やスキルを持っている人については、資格やスキルを活かせるものがよい。
- ・モデル事業はボランティアメニューがはっきり決まらないうちにモニターを募集し、実施期間が決まっていた。モデル事業でなくまずボランティアメニューありきであれば、地域らしさを感じることができ、受け入れる人材のいるボランティアメニューは存在する。モデル事業でわかる部分とわからない部分があるにとらえるべきだ。
- ・高齢化や過疎化によってコミュニティが維持できず、できなくなっている活動（祭りや一斉草刈り）を手伝ってもらえれば大変うれしい。相撲に参加してもらえるだけでもよい。
- ・参加者の移動方法については、民泊の推進・自転車の活用・宿泊施設近くのボランティアメニューの開拓によって対応したい。
- ・こちらが来てほしい時に来てほしいが、繁忙のピークには教える時間も惜しく、また暇な時期には無理やりボランティア作業を考え出すことになる。どちらでもない時期が望ましい。ただし特に単純な作業をしてくれる人や、何度も来ている人が繁忙期にいてくれるのはありがたい。

【参加者とマッチング】

- ・どういう人が来るのか事前に知っておきたい（どんなことができる／したい人なのか、可能な限り人となり）
- ・ボランティアは「ここまでならやってあげる」「ここまではやらしてもらわなくては困る」と線引きするものではないはず、「何をやりたいか」をはっきり持っている参加者を集めたい。
- ・ボランティアに来る人には、受け入れ側がどのような地域なのか、どのようなボランティアを望んでいるのか、どうしてボランティアをしてほしいと思っているのか（どう困っているのか）予め知ってほしい。これを承知した上で来たいという人ならば受け入れ側地域に合い、「どうしてそのボランティアをしたいか」を知ることによって、人となりもつかめるのではないか。ボランティアにふさわしくない参加者を排することにもなる。

【受け入れ体制と受け入れの意義】

- ・コーディネーターを支える、地域ごとの受け入れ委員会などの会議体をおくことでスムーズになるのではないか。
- ・遠くから初めて訪れる参加者の安心感のためには行政の事業であることが必要。ただし必ずしも行政がコーディネート役を務める必要はなく、むしろ民間に適任者を見つけたほうがよい。

- ・歓迎会は交流という意味だけでなく、ボランティアを本格的にはじめる前にまずお互いを知るという意味でも、初日に開催したほうがよい。
- ・ボランティアホリデーでの受け入れ側と参加者の出会いには、都会と過疎地のギャップ、ジェネレーションのギャップ、言葉・文化・生活習慣・「お互いが当然と思っていること」のギャップなど大きなギャップがある。しかし、例えば観光パンフレットを初めての訪問者がどう見るか、が地域情報の発信を考えるのに役立つなど、ギャップを知ったり、解決したりすることそのものに大きな意味がある。
- ・食事の提供等、つい過剰にもてなしてしまいがち、決め事を明らかにしてほしい

7. モデル事業から得られた問題点

(1) ボランティア・メニューに関する情報が少ない

今回はモデル事業で準備期間が短かったこともあるが、参加者に作業の重要性や地域の文化を理解してもらうためには、ボランティアの目的や作業の位置付けを説明する必要がある。また、都会と地方の常識の違いが大きく、参加者にボランティアに関する注意事項を説明しないと、作業上のミスで受け入れ側に損害を与える可能性もある。

(2) 地域の情報が少ない

観光パンフレットや観光案内所等、周辺観光に関する情報や交通機関や飲食施設に関する情報など、訪問者への情報提供が十分になされていない地域が多く、参加者が不便を感じる場面が多く見られた。

(3) 受け入れ側と参加者側のニーズをうまく折り合わせるしくみが不在

受け入れ側は提供するボランティアに適した参加者を求めているが、双方を折り合わせる仕組みがない。また、事前の参加者情報提供が不十分なため、受け入れ側やコーディネーターは事前のボランティアメニューの調整や作業計画ができない。

実際の受け入れに際しては、ボランティアの意志の薄い参加者が入りこんでしまうのではないかと、受け入れ側に一部懸念の声があったとともに、閑散期と繁忙期の受け入れが難しいとの意見もあった。

(4) 受け入れ側での対応や参加者のマナー等におけるルールが不在

受け入れ側と参加者の間で「ボランティア」や「ボランティアホリデー」の認識に違いが見られた。受け入れ側やコーディネーターの説明不足により、ボランティアが作業の趣旨を理解するにいたらず、単なる単純作業に終始してしまったことや、ボランティアメニューが乏しい時期に当たった地域では一部体験メニューを提供するというケースもあった。また、受け入れ側の親切

さに恐縮する参加者がいる半面、ボランティアをするという意志が薄く、体験観光と同様の認識の参加者もいた。

(5) 滞在における利便性や費用の問題

交通・飲食など現地での生活にかかる費用が割高であるという声が特に学生などから上がっており、また訪れたいが長期の滞在費用を心配する参加者が多かった。ある程度の長期滞在になるため、費用低減のためにも自炊や洗濯できる設備が望まれる。また、公共交通が発達しておらず、レンタカーやレンタサイクルが使えないと不便である。

(6) 受け入れ体制が整備されていない

自治体、コーディネーター等の受け入れ側の役割分担が曖昧である。また、事業を継続していくためにはコーディネーターの費用をどう捻出するかが課題である。

ボランティアメニューに関しては、参加者は地域に貢献できたという実感や地域の特性に触れられるメニューを求めており、これらの要望を満たすメニューの発掘が必要である。同時に、参加者の属性や意欲に応じて希望時間や希望する作業は異なる場合が多く、多様なメニューの設置が必要である。また、参加者は地域との交流を求めているが、作業中には交流が多くできないので、別途交流会があった方が良い。との指摘も見られた。

危機管理に関しては、受け入れ側からは万一の事故を心配する声が多く上げられており、万全の安全対策が必要である。

(7) コーディネーターとなる人材の不足

市町村によっては、コーディネーターとなりうる民間の適当な人材が見当たらない場合があった。今後は、NPOやまちづくりに関心のある住民グループ等の中から人材の発掘を行い、行政と連携しながら、受け入れ側と参加者の間に立ってコーディネート役を務められるよう、教育を行っていく必要がある。

また、問題点ではなく課題としてだが、高知県においてはU I J ターンによる定住を促進している市町村が多い。ボランティアホリデーでの長期滞在を半定住・定住に結びつけるためには、民泊や空き家での滞在を積極的に推進することによる住宅状況を知らせることや手に入りやすい雇用情報の用意があること、かつ地域の魅力をアピールしつつも過剰なもてなしを排し、隣人となるための、言わばふだん着の交流を行うことが重要であると考えられる。